

「能登の漁業伝統」～鯨伝説碑～ 石川県能登町

能登には鯨にまつわる伝説が数多く残っており、この庄次兵衛鯨もその伝説のひとつ。

正保年間(1664頃)、猪平集落に正直者の庄次兵衛という男がいた。沖へ出る漁師になりたくて、矢波集落の木下文左衛門に頼んで網水夫になった。その年の春は毎日のごとく大漁が続き、取れた魚を肴に毎日のように酒盛りがあった。庄次兵衛はすっかり酒の味を覚え年がたってからも酒の味が忘れられず、矢波集落の居酒屋でゴロゴロしていたが、あるとき馬小屋で寝込んでしまいとうとう起きられない体になってしまった。村の人々が不憫に思い食べ物を運び面倒を見てやるが亡くなってしまふ。



庄次兵衛鯨伝説碑

村人は生前庄次兵衛が「俺が死んだら、海へ流してくれ。必ず矢波の人に恩返しするよ。」と言っていたことを思い海の見える丘へ埋葬してやる。その数日後、「沖の台網に大鯨が一本入っているぞ・・・」と言うので在所中の舟が出てその鯨を捕らえ、磯へ引き込んだ。鯨はおとなしく、切り開いてみるとひれの下に「庄次兵衛」という字が浮き出していた。村人たちは庄次兵衛の死に際の言葉を思い出した。庄次兵衛の初七日の話である。

その鯨肉は村中で分けたというが、おりしも不景気な時であったので、村中が潤ったそうだ。「33尋の庄次兵衛鯨」といって伝えられ、その鯨の骨が最近まで諏訪の森に残っていたそうである。

みどころ



- 能登海洋深層水施設：2005年8月にオープンした施設。能登町小木沖3.7km地点、水深320mから1日約100トンの海洋深層水を取水しており、施設では「能登の塩」や原水、濃縮水、脱塩水が販売されている。また、関連商品として、水産加工品などにも多数利用されている。
能登海洋深層水施設HP：<http://www.notoshinsousui.jp/>